

抗議文

日本パワーリフティング協会理事各位

長野県パワーリフティング協会

公印省略

平成27年3月13日

貴下益々ご清祥事とお慶び申し上げます

さて、先般記念すべき和歌山国体での公開競技開催要綱が発表になりました。

悲願とも言える国体正式参加へ、登竜門とも言うべき公開競技の最初の大会です。

47都道府県の代表達が一堂に会して、盛大な大会として盛り上げ、もって弾みをつけ近年中の正式競技参入への最後の難関を、見事にクリアせんと意気込んでおりました。

ところが何と言う事でしょう。

全国から参加できる選手は、わずか105名？

少し考えると理解できますが、47都道府県で階級は男女で15階級。

本来ならば、705人の精鋭が参集し争う。

現状を見るに、まだまだフルエントリー可能な地方協会は少数です。

その中でもJPAの総力を挙げて、私共長野県協会を含め、弱小の地方協会を指導、てこ入れをしていただき、少しでも多くの選手を出せるようにする事こそ本筋。

国民体育大会は文字通り体育大会。

国民選手権大会ではございません。

広く多くの国民がスポーツ競技にいそしみ、その成果を持ち寄って発表しあう、いわば国家主催による一大運動会。

その趣旨からしても、地域格差や男女差別をなるべくなくし、一人でも多くの選手たちが出場できる方策を探ることが筋でしょう。

それが、105名とはどう言う事でしょうか？

更に、ブロック別の参加選手枠が関東は34名、私共北信越は10名。

女子選手は、関東でも3名、北信越はわずか1名。

性差別と世間にて受け止められても仕方がない状態です。

10名程度の選手数なら、何もブロックでなくて、長野県だけで充分に選出出来ます。

以前、国体の参加について、JPAの中村副会長と何度かお話をいただきました。

その時、副会長から、

主幹協会の実力から見て、和歌山県では105名程度が限界です。

とのご意見をいただきました。

おかしな話です。

2013年、私も長野県がジャパンクラシックを開催いたしました。

前年の2012年、同じ大会を開催いたしましたが、参加選手数が163名、3日間でなんとか開催可能な限界に思えました。

その時点で、翌年同大会の開催が決定しておりましたので、大会終了後総括を兼ねて長野県の理事会を開き、翌年度は参加選手が増加するであろうから、3日間では開催が困難、4日間開催にすると決定、その後JPAに伝え内諾をいただきました。

にもかかわらず、要綱を発表する時期になって、

4日間は止め3日間開催で行く旨JPA理事会で決定した。

主幹協会は長野県でも、あくまでも主催はJPAであることを忘れないでいただきたい。

と、藤谷専務理事から連絡をいただき、やむなく3日間開催にした経緯がございました。

和歌山県協会の実力がどうあれ、JPAが本気で取り組む大会として、国民体育大会に勝るものはございません。

今こそJPAは指導力を発揮し、主幹協会を指導し、3日間なり4日間の開催にするべきです。

長野県協会を指導した実績があつて、他協会は指導できないなら筋が通りません。

更に、国民体育大会はIPFルールにこだわる必要はありません。

全日本スキー連盟は、国民体育大会は大回転一種目のみの参加です。

スーパー大回転や、回転競技、ダウンヒルなどは参加人員と大会日程の関係で削除しております。

大回転競技も、本来の世界ルールでは2本滑っての合計タイムで争いますが、国民体育大会に関しては、1本だけの滑走で勝敗を定めます。

こう言う配慮がないと多くの選手が参加出来ないため、特別ルールを適用し運営しております。

私どもパワーリフティングも、本来は3種目3試技ですが、2試技制の採用、更には将来の年齢別カテゴリーを見据えるなら、2種目2試技制、もしくは1種目3試技制まで視野に入れて検討すべきでしょう。

ともあれ、今回の和歌山国体で3種目2試技制を採用するなら、長野県の経験から見て、1日100名のリフターが参加することが容易になります。

開催日を1日延長し3日間とし、2試技制を実施するなら300人の選手たちが国体の晴れ舞台に立つことができます。

その上で、全国の8ブロック、平等に参加数を振り分けて頂きたい。

女子選手枠も少なくとも男子の60%程度に検討して頂きたい。

以上、今後のパワーリフティング競技国体正式参加のため実施される事を、強く要請すると共に、今回の地域差別、男女差別ともいえる決定に固く抗議いたします。